

クロスボーダーM&A ：海外直接投資の新たな潮流

松林 洋一

要旨

我が国では長引く経済低迷、人口減少によって、国内市場が縮小傾向にある。こうした状況のもとでは、企業は国内の経済成長期待に対する見通しに関して悲観的になっており、国内設備投資も著しい増加は見られない。他方相対的に高い期待利潤率の基づき、企業は海外直接投資を加速させている。その際、従来は海外に子会社を設立し生産拠点を移すグリーンフィールド投資が主流であった。しかし近年は海外企業を直接買収、合併する「クロスボーダーM&A」が堅調な増加傾向を見せている。クロスボーダーM&Aは海外における市場や技術を短時間で効率的に獲得することが可能であるが、不十分な事前調査など、短期的視野に基づく意思決定に付随するリスクも内包している。翻ってわが国の事例に関する学術的な研究は殆ど存在していない。そこで本報告では、海外直接投資の新たな潮流であるクロスボーダーM&Aについて基本的概念や先行研究を展望、紹介するとともに、若干の定量的考察を行う。

具体的には、まずクロスボーダーM&Aに関する基礎的概念を整理し、データに基づいて若干の事実確認を行う。続いてクロスボーダーM&Aを国際的な資本ストック調整の一形態としてとらえ、他の資本蓄積形態（国内設備投資、国内M&A、海外グリーンフィールド投資）との関係においてクロスボーダーM&A固有の特徴を明らかにする。最後にクロスボーダーM&Aのパフォーマンス（売上高や収益への影響）を、個別企業のマイクロデータをもとに、因果推論の分析手法の進展を考慮して検証する。